

みょうじんやま ちょうぼう 明神山への眺望



図1 明神山への眺望 (2011年1月16日撮影)

世羅台地の玄武岩ドーム - 日本列島誕生のドラマ -

標高約500mのせら夢公園は眺めもよく、世羅台地の山々は、稜線がほぼ平坦につながって見え、まるで「地平線」のようです。その「地平線」から、キノコが生えたかのように、頭ひとつ抜きん出て高く見える山がいくつかあります。これらは昔の火山のあとで、玄武岩という岩石からできているので『玄武岩ドーム』と呼ばれています。世羅台地は、直径約30kmの狭い範囲内に、大小30個以上の玄武岩ドームが見られる大変珍しいところです。

現在地から西方面を眺めると、世羅町黒川の「黒川明神山」、同町津田の「明神山」、三次市上田町の「明神山」の3山を見ることができます。この3山は『三大明神山』とも呼ばれています。

これら3山では、1300万年前にマグマが噴出して「世羅西粗面岩類」と呼ばれる岩石類ができました。その後、900万年前に玄武岩マグマが噴出して、玄武岩ドームができたと考えられています。

表1 三大明神山の標高と現在地からの距離

	標高	現在地からの距離
黒川明神山	535.2m	6.9km
津田明神山	593.1m	7.7km
上田明神山	548.8m	10.2km

世羅台地の玄武岩ドームは、日本列島の誕生と深い関係があります。今から3000万年前、日本列島はまだアジア大陸の一部でした。2500万年前頃になると大陸の端に深い割れ目（地溝帯）ができ、地溝帯はどんどん広がり、海水が入ってきて1800万年前に日本海が誕生。そして1400万年前に日本海・日本列島が現在のような姿になったと考えられています。この間、世羅台地も一部は日本海の海水の下にあった時期があり、津田明神山周辺では「備北層群」と呼ばれる地層から、暖かい浅い海にすむ貝類などの化石が見つっています。こうして日本列島はアジア大陸から分離し誕生したのですが、かつての地溝帯に平行な古傷の割れ目を抱えていました。その古傷を通して、1300万年前に世羅西粗面岩類が、1200万年～800万年前には玄武岩類が次々と噴き出し、世羅台地の玄武岩ドームができました。このように、世羅台地は日本海が誕生した前後の、新生代の陸と海において展開された、日本列島の地史の中でも重大でダイナミックなドラマをしっかりと記録している、とても貴重な場所なのです。特にその記録が残っている、津田明神の備北層群と粗面岩は、県の天然記念物に指定されています。



図2 明神山への眺望 (地図ソフト『カシミール3D』で作成)